

自己評価報告書

平成23年5月15日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：20320041

研究課題名(和文)

未翻刻浄瑠璃本の網羅的調査・翻刻と複次的活用・公開に向けての基礎的研究

研究課題名(英文) Basic study on pre-reprinted Joruri books: its comprehensive survey, reprinting, and multiple utilization

研究代表者：鳥越 文蔵 (TORIGOE BUNZO)

早稲田大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：60063509

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：人形浄瑠璃文楽・浄瑠璃本・義太夫節・近世演劇・テキストデータ・近世語彙索引・書誌調査

1. 研究計画の概要

全体構想としては、我が国が世界に誇るべき「浄瑠璃本」文学の今日的復興を大目標とするものである。本研究課題はその基礎となるべく、日本文学研究者や専門家(人形浄瑠璃文楽の演技者や劇場関係者)への学術的貢献はもとより、当該分野に関心をもつ日本国民一般ひいては外国人研究者等へもひろく良質なテキストを提供し、以って大方の関心と叡智とを当該分野へ集めることを所期の目的とするものである。具体的には、

- (1) 翻刻作業・公開の一層の進展
- (2) 蓄積した本文データの諸活用についての検討・公開
- (3) 海外所在資料の書誌調査

を図るものである。

(1)については、玉川大学出版局の協力を得て、『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集』シリーズ12巻をすでに公刊した(2006-2007年)。同シリーズに後続させる形で、順次公開を図る。なお翻刻の精度を上げるために、さらに資料の紙焼き写真を収集する。

(2)については、(1)の翻刻作業によって得られた浄瑠璃本本文の電子データの、より高度な活用を目指す。具体的には日本語学上の資料に供するため、データベース化・索引化を行なう。加えて国立劇場のデジタル・アーカイブ事業との連携などを視野に入れ、公開利用の方途を探る。

(3)については、国内での浄瑠璃本(通し本。いわゆる丸本)の悉皆調査がほぼ完成することを受け、海外所在本について、国内同様の書誌調査を行なうこととしたい。諸本調査は、全点の実見に基づくことが国文学研究上の理想である。

2. 研究の進捗状況

(1)翻刻作業、公開の進展

享保期の未刊浄瑠璃作品の翻刻と電子入力のうち、「河内国姥火」「敵討御未太鼓」「鎌倉比事青砥銭」「楠正成軍法実録」「南都十三鐘」「和泉国浮名溜池」「梅屋洪浮名横櫓」「記録曾我玉笄」「源家七代集」「曾我錦几帳」の電子データ本文作成を行うことができた。翻刻による確実なテキストを完成するため、底本のほかに10行本を使用し、校訂作業を行った。また、各作品の担当者が、それぞれ原本調査を行うとともに、研究会を開き検討を行った。これにより、これまで重視されなかった十行本の利用価値が判明し、浄瑠璃本文確定に利用しなければならぬことが明らかになった。

(2)蓄積した本文データの初活用についての検討・公開

これまで蓄積してきた研究会で作成してきた翻刻データベース12作品を用いて、語彙索引の作成を進めたが、『出世握虎稚物語』については、単語タグ付け作業が完了し、自立語作品を公開する準備が整った。さらに「鬼一法眼三略巻」「京土産名所井筒」については、単語切り出し作業を終え、語彙認定作業に入る準備を整えることができた。いずれは、デジタルアーカイブによる公開を目指す可能性を得ることができた。

(3)海外所在資料の書誌調査

ロンドン大学 SOAS 図書館、大英図書館、ケンブリッジ大学図書館、ハーバード大学図書館所蔵の調査のほか、米国議会図書館での54点の浄瑠璃本を行った。中でも米国議会図書館蔵本のうちに、包み紙、奥付も揃った善本を見出すことができた。これによって『義太夫年表近世篇』の想定に新たな裏付けを得るという成果が上がった。

3. 現在までの達成度

おおむね計画とおりに進んでいる。

予定どおり、翻刻作業が進み、「義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集」第2期の刊行をすることができた。また語彙索引の作成も順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

(1)翻刻作業・公開

主に享保期の未翻刻浄瑠璃作品の翻刻と、その電子入力による本文作成を引き続き行なう。「義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集」第3期刊行に向けて、「待賢門夜軍」「車還合戦桜」「苧萱桑門築紫☆」「尼御台由比浜出」「一谷嫩軍記」「傾城枕軍談」「眉間尺象貢」「元日金歳越」「敵討襤褸錦」「蒲冠者藤戸合戦」「本朝檀特山」「釜淵双級巴」「曾我昔見台」「万屋助六二代岱」「丹州爺打栗」「いろは日蓮記」の書誌調査、翻刻作業を完成させる予定である。

翻刻に際しては、初版であってかつ初刷とみられる善本を底本とすることを目指す。正確な翻刻本文を作成するため、翻刻担当が必要最小限の書誌調査(訪書旅行)を行ない、また未調査機関の所在調査を進めながら、必要な諸本の写真を追加的に収集する。

(2)蓄積した本文データの諸活用についての検討・公開

浄瑠璃本文の網羅的横断的本文データベースの作成を行ない、デジタルアーカイブとしての公開に向けての準備を行なう。引き続き、翻刻完了作品「鬼一法眼三略巻」「清和源氏十五段」「藤原秀郷俵系図」の語彙索引の作成に向け、単語分節およびタグ付け作業を行なう。

(3)浄瑠璃本の所在調査

日本国内における浄瑠璃本の所在調査を書誌調査とともに行うとともに、海外所在本については、通信調査により浄瑠璃本所在の有無を確認し、データベース作りを確実に進めていく予定である。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文](計9件)

- ① 飯島満「文楽忠臣蔵四段目の由良助」『歌舞伎 研究と批評』40,28-44,2008,無
- ② 黒石陽子「仮名手本忠臣蔵の作者たち」『歴史と古典』10,84-101,2008,無
- ③ 坂本清恵「近世語と文楽」『国文学 解釈と教材の研究』2008年10月,114-121,2008,無
- ④ 黒石陽子「人形浄瑠璃と近世軍書」『江戸文学』41,110-120,2009,無
- ⑤ 内山美樹子「文楽のことばの現在」『文学』2011年3・4月号,48~58,2011,無
- ⑥ 内山美樹子「並木宗輔作「和田合戦女舞鶴」の構想と「吾妻鏡」」『芸能史研究』190,2010,無
- ⑦ 黒石陽子「曾我会稽山」における曾我十郎

—幸若舞『夜討曾我』「紋つくし」の活用をめぐって——」『文学』2011年2・3月号,79~89,2011,無

- ⑧ 原田真澄「太閤記物人形浄瑠璃における小野お通一賤ヶ岳物と「三日太平記」を中心に」『演劇博物館グローバルCOE紀要「演劇映像学2010」』,2011,無
- ⑨ 坂本清恵「浄瑠璃本の単語認定—仮名の用字と清濁について—」『論集』6,1-24,2010

[学会発表](計5件)

- ① 内山美樹子「並木宗輔「和田合戦女舞鶴」の構想と『吾妻鏡』」『芸能史研究会』第33回東京例会,2009年12月6日
- ② 内山美樹子「日本のシェークスピア 並木宗輔と三原」三原市・三原市文化協会文化講演会,2011年1月,広島県三原市ペアシティ三原西館大会議室
- ③ 原田真澄「Popularity of the Ningyô Jô ruri Bunraku Drama of Taikôki-mono Genre and Konoshitakage Hazama Gassen (人形浄瑠璃文楽の太閤記物流行と「木下蔭狭間合戦」)」Colloque international Pourquoi le théâtre? - sources et situation actuelle du théâtre - (国際シンポジウム「なぜ演劇か」) 2011年2月, Palais Universitaire
- ④ 坂本清恵「Variations of Regional Accent in the Japanese Puppet Theater」2010年5月 University of Washington
- ⑤ 坂本清恵「浄瑠璃本の仮名」『歌舞伎学会』2010年12月

[図書](計12件)

- ① 内山美樹子『文楽二十世紀後期の輝き 劇表と文楽考』早稲田大学出版部,467p,2010
- ② 坂本清恵・佐藤麻衣子・上野左絵『出世握虎稚物語 自立語索引』義太夫節正本研究会言語研究班,256p,2010
- ③ 鳥越文蔵監修・桜井弘担当『河内国姥火』玉川大学出版部 118p,2011
- ④ 鳥越文蔵監修・飯島満担当『記録曾我玉笄』玉川大学出版部,109p,2011
- ⑤ 鳥越文蔵監修・東晴美担当『梅屋洪浮名色揚』玉川大学出版部,81p,2011
- ⑥ 鳥越文蔵監修・山之内英明担当『楠正成軍法実録』玉川大学出版部,149p,2011
- ⑦ 鳥越文蔵監修・黒石陽子担当『源家七代集』玉川大学出版部 135p,2011
- ⑧ 鳥越文蔵監修・田草川みずき担当『和泉国浮名溜池』玉川大学出版部,109p,2011
- ⑨ 鳥越文蔵監修・原田真澄・山之内英明担当『鎌倉比事青砥銭』玉川大学出版部,134p,2011